

公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

令和2年度

施設名	新潟市母子生活支援施設ふじみ苑		
管理者名	社会福祉法人 新潟市社会福祉協議会	指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日
担当課	こども未来部こども家庭課		
所在地	新潟市東区		
根拠法令	児童福祉法		
設置条例	新潟市母子生活支援施設設置条例		
施設概要	敷地面積 2432.03㎡（老人デイサービスセンター部分を含む） 建築面積 931㎡（老人デイサービスセンター部分を含む） 延床面積 1481㎡ 建物・構造・主な施設内容 鉄筋コンクリート3階建て 居室 18室（うち1室身体障害者対応居室） 共有部分 事務室、相談室、多目的ホール、図書室、静養室等		

施設設置目的	
配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて、これらの者を保護するとともに、これらの者の自立の促進のためにその生活を支援し、併せて退所した者について相談その他の援助を行う。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
<p>子育てが困難な状況にある母子世帯や事実上の母子世帯の母親とその子どもを入所させて保護するとともに、様々な支援を通してその自立を促進する。</p> <p>母子はDVはじめ、多くの課題を抱えており、長期かつ総合的な支援を必要としている。母子の立場を尊重して信頼関係を構築し、ともに課題を解決する視点を持って支援を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）児童福祉法に基づく施設として、「子どもの最善の利益」を念頭に支援を行う。 （2）母子の希望や意志を尊重し、あたたかく、寄り添う立場で支援する。 （3）母子が共に生活できる施設の特徴を生かし、生活に密着した支援を行う。 （4）母子の退所後の地域での生活も含めた息の長い支援を行う。 （5）様々なニーズに対応するため、職員のスキルを向上させるとともにチームとして統一した支援を行う。 （6）入所者が心から安心でき、安全に暮らせるようマニュアル、環境を整える。 （7）関係機関との連携を重視し、協働して支援の充実を図る。 （8）入所者、及び第三者による評価を運営に生かす。 	

視 点	評価項目	評価指標	実績	評価 ※	評価コメント ※
市 民	自立支援計画の策定	母親と子どもの一人一人の自立支援計画策定率100%	母親と子ども(小学生以上)の自立支援計画を作成した。	B	母子それぞれの自立支援計画を策定することで、入所者の状況に応じた適切な支援につなげている
	利用者満足度	施設が行う支援について、説明を通じ母親と子どもそれぞれが主体的に選択できるように支援している。	入所時に母親と子どもに「しおり」を使って説明した。また個別の面談を実施、主体的に選択できるよう支援した。	B	入所者の個別面談を適切に実施し、自立に向けて適切な助言、指導がなされている
		行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすい工夫し計画実施している。:参加率60%	季節の行事、集会等の平均参加率は70%を超えた。	A	母親、子どもそれぞれに必要な情報が届くよう、工夫して実施している
		施設運営に対する聞き取り調査やアンケートの調査の実施:年1回	施設内自己評価にて、母親と子どもにアンケートを実施し、結果を公表した。	B	目標達成
	苦情・要望に対する対応	苦情解決の仕組みを確立し機能させている。 苦情対応の第三者委員配置:2人	苦情解決マニュアルを整備。第三者委員2名を配置し、生活のしおりで利用者に周知している。	B	適正に配置している
緊急時の適切な対応	災害、火災、不審者などを想定した避難訓練の実施:月1回	月1回、様々な想定で訓練を実施した。	B	目標達成	
財 務	管理運営経費の縮減	入札、見積り合わせなど、管理的経費縮減に努力すること	見積り合わせや用紙・光熱費の節約をした。	B	運営費の縮減に努めている
業 務	自立支援計画の実施	母親と子どもの一人一人の自立支援計画に基づく支援の実施状況を記録している。	計画に基づく支援内容を記録した。	B	適正に記録等を行っている
	緊急時の体制整備と対応	緊急時対応マニュアルの整備と研修:年1回の見直し、職員研修	マニュアルの見直しを行い、職員で研修した。	B	適正に研修や見直しを行っている
	個人情報保護の徹底	個人情報保護に関する内部研修 :年1回実施	市条例、法人の規定について内部研修を行った。	B	適正に研修を行っている
	関係機関との連携	福祉事務所や児童相談所などの関係機関との定期的な連携 :年10回以上	ケース会議、要対協議会議他、関係機関との連携は12回を数えた。	B	関係機関との情報共有、ケースの引継ぎが適切に行われている
	地域社会への参加・交流促進	ボランティアの受け入れに対する体制整備:年間受入人数36人	ボランティア(学生)の受け入れは、のべ56人だった。	A	ボランティアの受け入れ体制を整え、多くのボランティアの受け入れを行っている
	支援の継続性	退所後、安定した生活を送れるよう支援を行っている。	電話や来苑相談、行事案内送付、カウンセリングなど退所後も支援を行った。	A	退所後の支援について、行事の案内や寄贈物品の配布案内を送付するなど、工夫して実施している
	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	業務仕様書の遵守に努めた。	B	仕様書の遵守に努めている
人 材	配置人員の充足	施設運営最低基準による職員配置の遵守	職員配置の基準を遵守している。	B	適正に配置している
	配置人員の資質向上	計画的な実務外部研修実施:1人年2回以上	外部研修に1人平均3回参加した。	A	施設運営を工夫しながら外部研修に参加し、資質向上に努めている
		施設内、市母子生活支援施設合同、関係機関との内部研修の実施:年1回以上	施設内部研修を年5回実施した。	A	目標より多く内部研修を実施し、資質向上に努めている

指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

- さまざまな課題を抱えた母子の生活を守り、個別のニーズ、課題に応じた細やかな対応を心がけた。
- ソーシャルディスタンスに配慮し、退所者向け行事を企画、開催した。コロナ禍にあって生活が困窮しているひとり親家庭への支援物資を、より多くの世帯へ配布した。
- 子どもの発達段階に応じて、保育や学習の支援、季節に応じた行事を企画し、健やかな子どもの育ちを見守った。

所管課による総合評価(所見)

入所者が抱える課題はさまざまだが、入所者の状況に応じ、措置元、関係機関と情報共有しながら適切な支援を行っている。
職員研修を実施する等資質向上に努め、また学生ボランティアの受け入れを行い地域福祉の推進に寄与しており、総合的に指定管理者として優良と評価する。